

横須賀市からの発表案件なし

■市政一般に関する質疑応答

<質疑応答1>

記者

12月1日からYRPでサイバーディフェンスの新しい組織が官民一体となって発足しますが、横須賀市がその組織に関わっていくことはありますか。

市長

民間中心にYRPで始まったものですので、自治体に関わることができるところが具体的にどこになるのかを考えています。

サイバーの機運を醸成するために、就任当初から様々な条件整備をしてきました。行政としてできることを具体的に考えていきます。

記者

陸上自衛隊も今年度末に久里浜駐屯地の組織改編を行い、サイバーセキュリティの学校になります。防衛大学校や高等工科大学でもサイバーの研究を行うほか、授業でも取り扱っており、全国的にも珍しいサイバー研究の中心になっていくのではないかと期待しています。そこに横須賀市が絡んでいければ新たな目玉になるのではないかと考えています。

市長

私も同じ認識です。国家全体を見渡した時に、サイバーに関する危機管理意識が低いのではないかという思いがあります。横須賀には陸上、海上、航空自衛隊があり、防衛大学校もある。サイバーは、宇宙空間防衛にまでもかかわる問題であり、横須賀市でも何かできることがあるのではないかと考えています。そのために、先行して条件整備、ネットワークづくりを行ってきました。フランスでは、市を挙げてサイバー・クラスターを作っており、どうやって行政が関わっているのかを知るために、実際に現地に足を運びました。お金の問題もありますし、一自治体ができることに制限もあります。企業誘致という切り口で、自治体として何ができるかを考えていました。しかし、現実的に民間主体で動き出しているという状況で、自治体が出る幕は少ないと感じています。横須賀に来ていただいたサイバー企業に対して、自治体として何ができるかということは、先方にも聞く必要がありますし、これからの課題だと思っています。

記者

進出されてきたFFRIさんと同じような企業もいらっしゃると思います。これからも新たに横須賀に進出する企業が増えたら良いなと思っています。

今回の団体設立はひとつのきっかけになるのではないかと考えています。

市長

企業誘致を含めて、何ができるかということを考えていきたいと思っています。

<質疑応答 2>

記者

先週の衆議院の予算委員会で、自民党議員や閣僚の世襲が多いという話が話題になりました。政治家の世襲について、市長の見解を教えてください。是非も含めてどのようにお考えでしょうか。

市長

私は、若いころは新自由クラブでして、新自由クラブは世襲について反対でした。

今は、反対というより、能力があって、時代に合った見識を持った人であれば世襲は構わないと思っています。

選挙はとても大変で、ゼロから始めるには物凄いエネルギーが必要です。そのエネルギーを持つパワフルで世の中を変えていきたい、なんとかしたいという人間がこれから出てくるのか、そういった方が出てくる土壌が政治の世界にあるのか、そのような方は民間企業にいつてしまうのではないかと危惧しています。

見識も素養も持っていて、本当に国家や社会のことを考えられる人が、政治家に一番近い世襲の中にいるのであれば、世襲は仕方がないことではないかと思えます。

かつては世襲には反対でしたが、今は世襲であるか否かは問題ではないと思っています。

記者

横須賀市において、小泉家は四代に渡って国会議員です。もちろん選挙で市民に選ばれて国会議員になっており、それを否定するわけではありませんが、他に国会議員になりたい人がいても、なかなか手を挙げられない状況とも言えます。これは横須賀市にとって良いことなのか、悪いことなのか、どちらだと思いますか。

市長

これは横須賀市だけでなく日本全体に言えることかと思えます。政治家を志して、本当に社会貢献をしたいという方は、今の時代にどれだけいるのでしょうか。

時代が人を作るとしており、今の時代、そういった人が現れにくいのかもかもしれません。SNSなどを見ると、批判をする人は多いのですが、身を削る覚悟を持って政治家になろうとする人が少ないと感じています。今の社会にそういった人が出てくる土壌があるのかということに危惧しています。

記者

もし、市長のご息子が後を継いで政治家になりたいとおっしゃったらどうしますか。

市長

素養がないのでやめたほうがよいと思います。

本気で人の役に立ちたいと思うならやるべきですが、そうでなければ反対します。

<質疑応答 3>

記者

神奈川県が三浦市でライドシェアの実証実験を行っています。横須賀市も高齢者が多く、高齢者の足の確保という問題があると思います。その一方で、ライドシェアはタクシー業界等を圧迫するという話もあります。市長のご見解を教えてください。

市長

私はライドシェアよりも地域交通に取り組む方が先ではないかと考えています。

ドライバーになるハードルを低くする、あるいは、今、追浜で運行していますが、地域のコミュニティバスといったものを積極的に増やすための支援ができればと考えています。

横須賀市は、タクシーが飽和状態でもあり、ライドシェアは難しいのではないかと考えています。タクシー業界を圧迫し、さらなる負担をかけることになってしまうと考えると、いかにタクシーのドライバーさんを増やすための支援をさせてもらうか、どうやって地域のコミュニティバスを走らせるかというところに注力したらよいのではないかと考えています。

毎日新聞

現状で検討している地域交通はありますか。

市長

現在、追浜で地域交通が走り出しています。

基本的には、法律では民間事業者でやらなければいけないとなっています。

私が若い頃は、民間事業者ではなく行政がやるべきではないか、公営のものがあつた方がよいのではないかと考えていましたが、市長になっていろいろと考えますと、様々な課題があることがわかりました。現状は、タクシー業界の皆さんにお願いして、運行しています。

このように、地域交通を走らせるためにタクシー業界を支援するというほうが、横須賀らしいやり方ではないかと考えています。

以上